

平成 28 年 3 月 31 日
NDC-LD 共同研究作業グループ

NDC-LD の文脈付き分類項目名の生成について

「日本十進分類法 (NDC)」の冊子体及び MRDF において、分類項目は表として列挙されているがゆえに、各分類項目の項目名の独立性は高くない。つまり、個別の分類項目名だけでは、その項目が示す概念を十分説明できないものが存在している。(例えば、「521.3 古代：大和時代、奈良時代、平安時代」は、その上位の「521 日本の建築」を踏まえて判断しないと、当該項目が示す内容が分からない。)

そこで、NDC-LD では、「文脈付き分類項目名」を機械的に生成し、`rdfs:label` で示すこととする。なお、MRDF の項目名は、そのままの形で、別途、`skos:prefLabel`¹に格納する。

NDC-LD の「文脈付き分類項目名」は、原則として、以下のルールに従って生成する。²

①`rdfs:label` に「文脈付き分類項目名」を格納する対象は、以下の 3 つとする。

- (A) MRDF 本表に含まれる分類項目リソース及び中間見出しリソース
- (B) 相関索引及び NDLSH から機械生成された分類項目リソース。〔例：762.34 ドイツ音楽〕一つの語から生成されるものだけでなく、複数の索引語または件名標目から生成される分類項目も含む〔例：ndc9:388.1 (河童, 天狗, 山姥)〕
- (C) 本表の記号に補助表の記号を付加することによって、機械合成された分類項目リソース〔例：302.125 政治・経済・社会・文化事情@山形県〕。なお、こうした機械合成語の `skos:prefLabel` には「合成元の項目名@補助表の項目名」³を入れ、`rdfs:label` にはその「@」を「-」に置き換えたものを文脈化して格納する。

②1 ケタ、2 ケタの記号をもつ項目は、項目名の独立性が高いため、文脈付き分類項目名は生成しない。

ただし、MRDF 本表の項目と区別するために、`rdfs:label` には、項目名に「(類目)」もしくは「(綱目)」を付加したものを格納する〔例：0 総記(類目)〕。なお、`skos:prefLabel` には項目名のみを入れる。

③MRDF 本表に含まれる 3 ケタの記号をもつ分類項目⁴では、単独では内容を示すのに十分でない項目をリスト化する (リストは下記参照)。リストの項目に対して、文脈付き分類項目名として、「2 ケタ (綱目) の分類項目名 -- 当該分類項目名」を与える。

¹ なお、`skos:prefLabel` では、日本語とともに英語も扱うため、特に言語タグをつけて用いる。

² 文脈ラベルの生成については、分類体系上の複雑さ等により、機械的なロジックのみでは限界がある場合もあり、個別的な補正については今後の検討事項となる。

³ なお、29n (各国・地域の地理・地誌・気候) の合成では例外的に、`skos:prefLabel` には合成元項目名を付けず、補助表の項目名のみを入れている。

⁴ 要目表に記載があるが MRDF 本表に含まれていない 3 ケタ項目 (NDC9 例：042~048、053~058、071~077、351~357) は、生成し追加している。

NDC9 版					
031～038	203～208	291～299	403～408	803～808	903～908
041、042～048	211～219	301	503～508	811～818	911～918
052、053～058	221～229	303～308	589	821～828	921～928
071～077	231～239	351～357	603～608	831～838	931～938
081～089	241～249		616～618	841～848	941～948
103～108	251～259		703～708	851～858	951～958
123、125	261～268		743～745	861～868	961～968
156～159	271～279			871～878	971～978
187、188	281～287			881～888	981～988
NDC8 版					
031～038	203～208	301	403～408	803～808	903～908
041～048	211～219	303～308	503～508	811～818	911～918
051～058	221～229	351～357	589	821～828	921～928
061～067	231～239		603～608	831～838	931～938
071～077	241～249		616～618	841～848	941～948
081～088	251～259		703～708	851～858	951～958
103～108	261～269		743～745	861～868	961～968
123、124、125	271～279			871～878	971～978
131～133	281～288			881～888	981～988
158	291～299				
188					

④4 ケタの記号をもつ分類項目については、全ての項目に文脈付き分類項目名を与える。文脈付き分類項目名は、「3 ケタの分類項目名 -- 当該分類項目名」とする。前置する「3 ケタの分類項目名」が②で文脈化されている場合は、それを用いる。

⑤5 ケタ以上の項目に与える文脈付き分類項目名は、「3 ケタの分類項目名 -- 1 階層上の分類項目名 -- 当該分類項目名」とする⁵。なお、この場合、1 階層上の分類項目名⁶は、文脈化されていてもそれは用いず、当該分類項目名だけを採用する。

⁵ この対処を行う理由は、5 ケタ以上の項目には、④の文脈生成ルールでは十分でない場合が散見されたことがある。(例えば、「375.53」「375.83」は④の生成ルールでは差別化できない。⑤の生成ルールを用いると、「375.53 教育課程. 学習指導. 教科別教育--技術・家庭科--中学校」「375.83 教育課程. 学習指導. 教科別教育--国語科. 国語教育--中学校」となり、両者を区別できる)。

⁶ 「1 階層上の分類項目名」には、原則として、階層構造モデルに従った直近の上位分類の項目名を用いている。ただし、補助表による合成語に関しては、機械合成ロジックの関係で、必ずしも、1 階層上の分類項目名が skos:broader で指示された直近の上位分類とは一致していない。